

# 医学教育分野別評価 埼玉医科大学医学部医学科 年次報告書

## 2024(令和6)年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36

### はじめに

本学医学部医学科は、2021（令和3）年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022（令和4）年10月1日より7年間の認定期間が始まった。医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.36を踏まえ、2024（令和6）年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2023（令和5）年4月1日～2024（令和6）年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 の転記は省略した。

### 1. 使命と学修成果

評価報告書の領域1.2、領域1.3および領域1.4の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、カリキュラムの検討への学生の参画、使命や学修成果の見直しへの学生の参画、学修成果のさらなる周知等の助言・示唆を受けた。これらに対し2021（令和3）年度および2022（令和4）年度は、カリキュラム委員会への学生の参画の充実、1～4年生および6年生を対象とした学生による学修成果の自己評価の実施、医学部ポリシー改定ワーキンググループの設置とディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの見直しの検討などを実施した。2023（令和5）年度については以下に取り組んだ。

#### 1.3 学修成果

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 知識・技能・態度を統合した実践力として学修成果とマイルストーンを詳細に定めていることは評価できる。

##### 改善のための助言

- ・ 学生や教職員などに対して学修成果のさらなる周知を図るべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和5）年度に医学部コンピテンシーおよびディプロマ・ポリシーの改定に取り組んだ。改定にあたっては、卒前教育委員会のもとに医学部ポリシー改定ワーキンググループを設置し、教員をはじめ職員および学生代表もこれに参加した [資料1-01]。このワ

ワーキンググループで医学部ディプロマ・ポリシーの改定案を作成し [資料1-02]、パブリックコメントを求めた [資料1-03]。パブリックコメントを求めた先は教員のみならずすべての職員およびすべての学生とした。また、学生については全学年でおおよそコマの講義時間を使って説明し、意見を求めた。1年生、2年生、3年生、5年生および6年生で、個々の学生に医学部ディプロマ・ポリシーの改定に関する意見・感想を書かせて提出させた。また、2年生と4年生については医学部ディプロマ・ポリシーの改定案についてグループワークを行い、良い点、改善すべき点などをまとめてもらった [資料1-04]。また、これらの活動を通じて学生や教職員などに対して学修成果の更なる周知が図られた。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・ 資料 1-01 第 1～8 回 医学部ポリシー改定ワーキンググループ 議事録
- ・ 資料 1-02 医学部ディプロマ・ポリシー改定案
- ・ 資料 1-03 医学部ディプロマ・ポリシー改定に関するパブリックコメント
- ・ 資料 1-04 医学部 1～6 年生の意見

#### **質的向上のための水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ なし

##### **改善のための示唆**

- ・ 医学研究、国際保健に関してマイルストーンをさらに充実することが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

2023（令和5）年度に医学部コンピテンシーの改定に取り組んだ。改定にあたっては、卒前教育委員会のもとに医学部ポリシー改定ワーキンググループを設置し、教員をはじめ職員および学生代表もこれに参加した。この活動によって医学部コンピテンシー改定案が作成され、教員代表者会議で承認された。この医学部コンピテンシー改定案に基づいてマイルストーンの改定がカリキュラム委員会のもとに設置されたマイルストーンワーキンググループで検討され [資料1-05]、新マイルストーンを制定した。このマイルストーンにおいて、1年生には①研究の計画、実施、結果の解析、発表などの過程を概説できる、②医学研究に必要な統計手法の基本的な考え方を理解し、必要な測定を行って得られたデータについて統計処理ができる、の2つを定めた [資料1-06]。2年生から6年生については2024（令和6）年度に改定する計画である。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・ 資料1-05 マイルストーンの策定に関する方針
- ・ 資料1-06 1年生マイルストーン評価（シラバス補遺）

### **1.4 使命と成果策定への参画**

#### **基本的水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ 使命や学修成果の策定には、学生が実質的に参画すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和5）年度に医学部コンピテンシーおよびディプロマ・ポリシーの改定にあたり、全学年でおおよそコマの講義時間を使って説明し、2年生と4年生については医学部ディプロマ・ポリシーの改定案についてのグループワークを行い、良い点、改善すべき点などをまとめてもらった〔資料1-04〕。学生のグループワークの結果も踏まえ、ディプロマ・ポリシーの「6. コミュニケーション能力」の（1）に「敬意と思いやり」の文言を記載した。この案が、カリキュラム委員会〔資料1-07〕および教員代表者会議〔資料1-08〕で承認された。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 1-01 第 1～8 回 医学部ポリシー改定ワーキンググループ 議事録
- ・ 資料 1-02 医学部ディプロマ・ポリシー改定案
- ・ 資料 1-03 医学部ディプロマ・ポリシー改定に関するパブリックコメント
- ・ 資料1-04 医学部1～6年生の意見
- ・ 資料1-07 令和5年度 第6回 カリキュラム委員会 議事録
- ・ 資料1-08 令和5年度 第570回 教員代表者会議 議事録

## 2. 教育プログラム

評価報告書の領域2.2、領域2.4および領域2.5の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、研究マインドの醸成、行動科学の臨床実習での教育、診療参加型臨床実習の充実等の助言・示唆を受けた。これらに対し2021（令和3）年度および2022（令和4）年度は、全学生の研究室配属（研究参画）実施のための検討、診療参加型臨床実習の実態調査などを実施した。2023（令和5）年度については以下に取り組んだ。

### 2.2 科学的方法

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ 研究プロジェクトへの参画や科学的手法を身に付けるカリキュラムをすべての学生に対して提供し、研究マインドの醸成を図るべきである。
- ・ 臨床実習においてEBMを活用するなど、EBM教育をさらに充実させるべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学ではこれまで、研究プロジェクトへの参加や研究マインド涵養の仕組みとして、自由参加制の「課外学習プログラム」を実施してきた。研究プロジェクトへの参画や科学的

手法を身に付けるカリキュラムをすべての学生に対して提供するために、2022（令和4）年度、カリキュラム委員会内に新たに研究参画ワーキンググループを設置して検討を開始した。2023（令和5）年度は、研究参画ワーキンググループ〔資料2-01〕にて研究室配属の配属時期・期間・実施・評価方法について検討するため、各基本学科（一般的には講座）に対し学生の受け入れ可能人数、研究テーマ、受け入れ可能日数、対応指導可能教員数などを調査した〔資料2-02〕。この調査結果に基づいて仮運用期間を含めて実施に向けた検討を進めた。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・ 資料2-01 第4～13回 研究参画WG 議事録
- ・ 資料2-02 学生の研究配属に関するアンケート 調査票

## **2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ 行動科学、社会医学、医療倫理学に関連するコンピテンシーが学年ごとに設定され、教育が行われている。

#### **改善のための助言**

- ・ 臨床実習を指導する教員に、行動科学の教育内容や評価法を周知し、臨床実習においても確実に教育すべきである。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

臨床実習を指導する教員に、行動科学の教育内容や評価法を周知するために2023（令和5）年10月26日～2024（令和6）年3月31日の間、1～4年の行動科学と医療倫理ユニットの教育内容のうち、臨床現場での教育にも継続している内容（ひとと関わる、話し合いのスキル、リフレクション（振り返り）、認知行動療法等）について教材を作成し、臨床実習を指導する教員にeラーニング形式でFDを行った〔資料2-03〕〔資料2-04〕。このFDは、臨床実習を指導する教員のうち301人が参加した〔資料2-05〕。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・ 資料2-03 令和5年度 第2回 FD部門会議 記録
- ・ 資料2-04 行動科学eラーニング資料
- ・ 資料2-05 行動科学eラーニング受講者リスト

## **2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間**

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ 基礎医学では「エネルギー系」、「調節系」、「情報系」として水平的統合された教

育が実施されている。

- ・ 臨床医学では臓器系統別の教育が実施されている。
- ・ 「地域医療とチーム医療」において社会医学と臨床医学の垂直的統合カリキュラムが実施されている。
- ・ 自由選択制の「課外学習プログラム」が多種類設けられ、すべての学年の学生に年間を通じて提供されていることは評価できる。

### 改善のための示唆

- ・ 基礎医学、行動科学および臨床医学の垂直的統合をさらに推進することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

行動科学と臨床医学の垂直的統合として、2023（令和5）年度より、5年生の特別演習で実施するCOIや研究倫理に関する講義を行動科学・医療倫理を担当する教員が実施した [資料2-06] [資料2-07]。垂直的統合のさらなる推進については、カリキュラム委員会内に設置されたIPE・行動科学ワーキンググループで検討していく計画である [資料2-08]。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-06 令和5年度 臨床実習推進室会議(2023年度1学期特別演習日程表)
- ・ 資料2-07 2023年7月1日 講義資料
- ・ 資料2-08 令和5年度 第1回 カリキュラム委員会 議事録

## 2.8 臨床実践と医療制度の連携

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 卒業生のアンケート結果に基づき、心電図の実践的診断や医学英語の授業を充実するなど、教育プログラムの改良につなげている。

### 改善のための示唆

- ・ 研修協力施設に卒前医学教育に関するアンケート調査を定期的に行うことが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022（令和4）年度に引き続き2023（令和5）年度も研修協力施設に対して卒前医学教育に関するアンケート調査を行った [資料2-09] [資料2-10]。今後も定期的にアンケート調査を実施していく。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-09 令和5年度 埼玉医科大学医学部の卒前医学教育に関するアンケート調査依頼文書
- ・ 資料2-10 令和5年度 埼玉医科大学医学部の卒前医学教育に関するアンケート調査結果

### 3. 学生の評価

評価報告書の領域3.1および領域3.2の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、評価方法のシラバスへの記載の充実、技能・態度評価の拡充、評価の内容・方法の専門家による吟味、評価結果に対する疑義申し立て制度、評価の信頼性と妥当性の検証、マイルストーン達成評価と学修成果との整合性の検証、「修学カルテ」の活用と学修成果の達成度評価・形成的評価の充実、各学年における試験の回数・日程の調整、ユニットの試験結果のフィードバックの充実等の助言・示唆を受けた。これらに対し2021（令和3）年度および2022（令和4）年度は、評価方法のシラバスへの記載の充実、カリキュラム評価委員会のもとに学習者評価検討小委員会を設置し信頼性妥当性の検討、異議申し立て制度の運用、カリキュラム委員会によるコンピテンシーの見直し、「修学カルテ」の改良、「指定学外施設懇談会」における学外施設の教員への説明などを実施した。2023（令和5）年度については以下に取り組んだ。

#### 3.1 評価方法

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための助言

- ・ 各ユニットの評価方法について、シラバスへの記載を充実すべきである。
- ・ mini-CEX、360度評価などを用いて技能・態度評価をさらに拡充すべきである。
- ・ 評価の結果だけでなく、評価の内容、方法についても当事者以外の専門家による吟味を進めるべきである。
- ・ 評価結果に対して、疑義申し立て制度を適切に運用すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022（令和4）年度に引き続き、2023（令和5）年度についてもユニットディレクター（科目責任者）以外の教員によるシラバス点検を実施した〔資料3-01〕〔資料3-02〕。このシラバス点検においてはユニットの到達目標、講義内容とモデル・コア・カリキュラムとの関連性、キーワード、評価方法、事前学修内容、事後学修内容などを点検し、ユニットディレクターにフィードバックしている〔資料3-03〕。これらの過程で各ユニットの評価方法がシラバスに記載されていることを確認した。次年度以降も継続して行う計画である。

臨床実習における360度評価は国際医療センターにおいて看護師、患者さんからの評価を実施してきた。2023（令和5）年度からは総合医療センターにおいても看護師による360度評価票を導入、評価結果については学生にもフィードバックを行った〔資料3-04〕〔資料3-05〕。次年度はさらに360度評価を充実させる計画である。

2023（令和5）年度は、成績異議申し立てがユニット試験、卒業試験、CBTについてあり、それぞれ「成績評価に対する異議申し立て 検討小委員会」が開催され対応した〔資料3-06〕。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料3-01 令和5年度 シラバス作成依頼
- ・ 資料3-02 令和5年度 シラバスの相互点検について（ご依頼）
- ・ 資料3-03 令和5年度 シラバス相互点検結果
- ・ 資料3-04 第179回 臨床実習推進室会議 議事録
- ・ 資料3-05 360度評価シート、実施報告書
- ・ 資料3-06 成績評価に対する異議申し立て検討小委員会 報告書

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ すべての評価について信頼性と妥当性を確実に検証することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022（令和4）年10月にカリキュラム評価委員会のもとに学習者評価検討小委員会を設置し、2023（令和5）年度についても3回開催した〔資料3-07〕。また、学習者評価検討小委員会のもとに試験の信頼性・妥当性を検討する分科会を設置し、その中で、試験の得点分布、試験問題の内容、試験の実施期間などについて審議を行った〔資料3-08〕。今後もこの小委員会において評価の信頼性・妥当性を検討・検証していく計画である。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料3-07 第3回～第5回 学習者評価検討小委員会 議事録
- ・ 資料3-08 第3回 試験の信頼性・妥当性を検討する分科会 議事録

## 3.2 評価と学修との関連

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ ユニットによるマイルストーン達成評価を導入している。
- ・ 学修成果の達成度評価、形成的評価を行うために「修学カルテ」を用いている。

#### 改善のための助言

- ・ ユニットによるマイルストーン達成評価と学修成果との整合性をさらに検証すべきである。
- ・ 「修学カルテ」をさらに活用して学修成果の達成度評価、形成的評価を進めるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和5）年度にはユニットによるマイルストーン達成評価と学修成果との整合性を

取るために、新しい医学部コンピテンシーに基づき、1年生についてマイルストーンと評価担当ユニットのマトリックス表を作成した [資料3-09] [資料3-10]。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・ 資料3-09 令和5年度 第6回 カリキュラム委員会 議事録
- ・ 資料3-10 マイルストーンと評価担当ユニットのマトリックス表

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ なし

#### **改善のための示唆**

- ・ 学修効果を高めるために、各学年における試験の回数、日程を調整することが望まれる。
- ・ 総合試験や卒業試験だけでなく、ユニット試験についてもフィードバックをさらに進めることが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

2022（令和4）年10月にカリキュラム評価委員会のもとに学習者評価検討小委員会を設置し、2023（令和5）年度についても3回開催した [資料3-07]。また、学習者評価検討小委員会のもとに試験の信頼性・妥当性を検討する分科会を設置し、その中で、試験の回数、日程、試験の実施期間などについて審議を行った [資料3-08]。今後もこの小委員会において試験の回数、日程を検討・検証していく計画である。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・ 資料3-07 第3回～第5回 学習者評価検討小委員会 議事録
- ・ 資料3-08 第3回 試験の信頼性・妥当性を検討する分科会 議事録

## **6. 施設・設備**

評価報告書の領域6.2、領域6.3、領域6.4、領域6.5および領域6.6の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、各学生が担当した患者数と症候・疾患分類の把握、学外の臨床実習指導医に対するFD、インターネット環境の改善、研究マインド涵養の促進のための環境とカリキュラムの整備、医学教育に関する研究・開発の発展と発信、教職員・学生の国際交流の発展等の助言・示唆を受けた。これらに対し2021（令和3）年度および2022（令和4）年度は、学外の臨床実習指導医に対するFD、カリキュラム委員会への研究参画ワーキンググループの設置と全学生の研究室配属（研究参画）の検討などを実施した。2023（令和5）年度については以下に取り組んだ。

### **6.2 臨床実習の資源**

#### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ 総病床数2,718床の学内3病院を有し、臨床実習を行うための十分な患者数と多様な疾患が確保されている。
- ・ 県内の38病院と5診療所を指定学外臨床実習施設として、地域医療、在宅医療、健康増進、予防医学を学べるプログラムが提供されている。
- ・ 多数の臨床系教員、臨床研修指導医が学生の教育に参加していることは評価できる。

#### 改善のための助言

- ・ 各学生が担当した患者数と症候・疾患分類を把握して分析し、学生が適切な臨床経験を積めるように整備すべきである。
- ・ 学内の教員だけでなく、学外の臨床実習指導医に対しても教育法や評価法について十分な能力開発を行うべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和5）年度から臨床実習において各学生が担当した患者数と症候・疾患分類を把握するために本学のLMSであるWebClassの「修学カルテ」上に入力フォーマットを作成し、学生に入力させるようにした〔資料6-01〕。本年度はデータ入力十分ではないため2024（令和6）年度からの実質化を目指して入力促進の方法を検討している〔資料6-02〕。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料6-01 修学カルテ入力フォーマット
- ・ 資料6-02 第170回・第174回 臨床実習推進室会議 議事録

### 6.3 情報通信技術

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 学修効果を高めるために、インターネット環境へのアクセスをより改善すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生のインターネット接続環境を改善するため、2023（令和5）年度に講義棟であるオルコスホールのすべての教室、本部棟の第3講堂、総合医療センターの学生控室および図書室のアクセスポイントを更新し通信速度を向上させた〔資料6-03〕。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料6-03 無線アクセスポイント工事見積書・医学部学生用無線LAN装置の更新に関するお願い

### 6.4 医学研究と学識

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 研究マインドの涵養を促進するために、学生が医学研究や開発に直接関与できる環境とカリキュラムを整えることが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学ではこれまで、学生が医学研究や開発に直接関与できる仕組みとして、自由参加制の「課外学習プログラム」を実施してきた。医学研究や開発への関与のさらなる充実のために、2022（令和4）年度に、カリキュラム委員会内に新たに研究参画ワーキンググループを設置して検討を開始した。2023（令和5）年度は、研究参画ワーキンググループにて研究室配属の配属時期・期間・実施・評価方法について検討するため、各基本学科（一般的に講座）に対し学生の受け入れ可能人数、研究テーマ、受け入れ可能日数、対応指導可能教員数などを調査した〔資料6-04〕〔資料6-05〕。この調査結果に基づいて、すべての学生が医学研究や開発に直接関与できるカリキュラムとして研究室配属を実施するための検討を行った。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料6-04 第4～13回 研究参画ワーキンググループ 議事録
- ・ 資料6-05 学生の研究配属に関するアンケート調査票

## 6.5 教育専門家

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 学内外の教育専門家が参加する医学教育ワークショップFDが開催され、教員の教育能力向上に活用されている。

#### 改善のための示唆

- ・ 医学教育に関する研究開発をさらに発展させ、国内外に発信することが期待される。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和5）年度は、日本医学教育学会が発刊する雑誌「医学教育」に4編の論文を投稿し掲載された〔資料6-06〕。また、第55回日本医学教育学会大会において15題の演題を発表した〔資料6-07〕。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料6-06 雑誌「医学教育」に掲載された論文（4編）
- ・ 資料6-07 第55回 日本医学教育学会大会プログラム

## 6.6 教育の交流

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 教職員、学生の国際交流をさらに発展させ、国際的な視野を培うことを促進することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和5）年度はFNCA（Forum for Nuclear Cooperation in Asia；アジア原子力協力フォーラム）による医学生への特別公開講義を開催した。この特別公開講義では、アジア原子力協力フォーラムの委員4名から、アジア地域における放射線医学・核医学について講演があり、医学部5年生は全員が参加し感想文を提出し、医学部3年生および教職員が参加した〔資料6-08〕。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料6-08 FNCA（アジア原子力協力フォーラム）公開講義案内

## 7. 教育プログラム評価

評価報告書の領域7.1、領域7.2、領域7.3および領域7.4の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、モニタ・評価する仕組みの実質化とそれに基づくカリキュラム改善、社会的責任の観点からの評価、卒業生の追跡とによる長期間で獲得される学修成果の評価、教員と学生による系統的なフィードバックとそれに基づく改善、卒業生の実績の収集と分析、学生の実績に関する分析の委員会へのフィードバック、より広い範囲の教育の関係者からのフィードバック等の助言・示唆を受けた。これらに対し2021（令和3）年度および2022（令和4）年度は、「アセスメント・ポリシー」および「アセスメント・プラン」の策定とそれに基づくデータの蓄積と分析、IRセンターによるユニットの教育を評価するユニット評価調査の実施と集計・分析などを実施した。2023（令和5）年度については以下に取り組んだ。

### 7.1 教育プログラムのモニタと評価

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ カリキュラムと学修成果をモニタ・評価するために階層化された複数の仕組みが構築され、IRセンター、調査解析室および臨床実習推進室により、学生と教員から多くのデータ収集が開始されている。

##### 改善のための助言

- ・ 教育プログラムをモニタ・評価する仕組みは始まったばかりであり、新カリキュラムを体系的に評価し、カリキュラム改善に確実に反映すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022（令和4）年4月より新たにIRセンターが各ユニットの定期試験終了時に当該ユニット（科目）の授業内容について、教育内容の量・難易度、定期試験の出題範囲・難易度、さらに講義コマごとに良かった点、改善すべき点についての自由記載を含む学生による授業評価（「ユニット評価調査」）を実施している〔資料7-01〕。この調査の中で最も重要な点は講義コマごとの改善すべき点への自由記載である。調査の結果をIRセンターが分析し、この自由記載において同じ内容の指摘が5件以上あった場合には改善の余地があるものとして、カリキュラム評価委員会に報告を行った〔資料7-02〕。カリキュラム評価委員会はこの報告に基づき教育プログラム評価を行い、必要と認めた場合にカリキュラム委員会に提言することとした〔資料7-03〕。カリキュラム委員会はこの提言に基づき当該ユニットに対して聴き取りを行い、必要に応じて改善を検討するよう依頼した〔資料7-04〕。2023（令和5）年度についても同じくユニット評価調査を実施し、IRセンターで分析を行い、カリキュラム評価委員会に報告を行った。この報告では、2022（令和4）年度に改善の検討を依頼したユニットについては同様の指摘はなく、その旨をカリキュラム委員会に報告した。これらの一連の調査・分析・報告・改善・実施・改善の評価の過程が機能し、教育プログラムの改善が確実に行われたものとする。今後は、コンピテンシーの到達度に関する学生による自己評価の調査を分析し、カリキュラム全体の教育プログラム評価に取り組む計画である。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・ 資料7-01 2022（令和4）年度 ユニット評価調査 結果分析
- ・ 資料7-02 第49回 IRセンター運営会議 議事録
- ・ 資料7-03 令和5年度 第1回 医学部カリキュラム評価委員会 議事録
- ・ 資料7-04 令和5年度 第3回 医学部カリキュラム委員会 議事録

## **8. 統括および管理運営**

評価報告書の領域8.1、領域8.2、領域8.3および領域8.5の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、各委員会での学生や幅広い関係者の意見の反映、インターネット環境の整備、地域の医療ニーズを踏まえた交流の活発化等の助言・示唆を受けた。これらに対し2021（令和3）年度および2022（令和4）年度は、大学のインターネット回線の増速、群馬大学と連携した文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業による地域医学の教育プログラムの開発・実践などを実施した。2023（令和5）年度については以下に取り組んだ。

### **8.3 教育予算と資源配分**

#### **基本的水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ カリキュラムの改善に必要な教育施設に積極的に予算配分を行っていることは評価できる。
- ・ 新型コロナウイルス蔓延に対する臨機応変な対応がなされ、学生への支援が行われた。

#### **改善のための助言**

- ・ インターネット環境を学生や教職員のニーズに応じて改善すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2021（令和3）年度および2022（令和4）年度の医学部6年生卒業時満足度調査において、学内無線LANおよびインターネット環境が不十分であるとの指摘を受けていた。これに対し、2022（令和4）年5月23日、大学としての基幹回線をそれまでの100Mbpsの速度の回線から1Gbpsに改善した。さらに2023（令和5）年度は、医学部学生が授業を受けるオルコスホールのすべての教室および第3講堂の学内無線LAN環境の高速化を実施した〔資料8-01〕。また、総合医療センターの学生控室および図書室についても同様に高速化した。これらにより、学生のインターネット環境は大幅に改善された。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料8-01 無線アクセスポイント工事見積書・医学部学生用無線LAN装置の更新に関するお願い

## 8.5 保健医療部門との交流

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域枠拡充など、医師不足の深刻な埼玉県 of 行政部門と密接に連携していることは評価できる。

#### 改善のための助言

- ・ 地域の医療ニーズを分析し、交流をさらに活発化させるべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022（令和4）年度に開始した本学と群馬大学との共同事業「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業」では、2023（令和5）年3月30日に開催した令和4年度第2回連携推進会議において、医師不足地域の医療機関の代表者、両県医師会、両県の参加を得て、高校生や医学部低学年から地域や地域医療の現場を見学し、地域医療のニーズを理解し、地域医療に従事する志の育成について要請された。2023（令和5）年10月には、埼玉県の連携医療機関の教育環境の整備としてシミュレータ等の貸与、そのための説明会を埼玉医科大学シミュレーショントレーニングセンターにおいて実施した。2024（令和6）年2月1日には、外部評価委員会が開催され、事業評価を受けた。2023（令和5）年12月23日には、地域包括ケアの第一人者である田中滋氏による「地域包括ケアの進展と地域医療の展望」の講演会を開催し、行政、自治体、地域の医療機関の保健・医療・福祉専門職が参加した。2024（令和6）年2月29日には、2023（令和5）年度第1回連携推進会議を開催し〔資料8-02〕〔資料8-03〕、2024（令和6）年度に向けた計画について、連携機関からの意見を受けるなど、交流を密に実施している。2024（令和6）年2月29日には、埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウムを開催して〔資料8-04〕、地域医療教育を先駆的に実施している筑波大学の前野哲博教授の講演、事業の成果を報告し、行政、連携医療機関院長も参加し、今後の課題を共有するなど、活発に交流した。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料8-02 令和4年度 第2回埼玉・群馬未来医療人育成連携推進会議 議事録
- ・ 資料8-03 令和5年度 第1回埼玉・群馬未来医療人育成連携推進会議 議事録案
- ・ 資料8-04 令和5年度 埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム開催（案内）

## 9. 継続的改良

評価報告書の領域9の「改善のための助言」において、継続的改良を行うための体制をより充実させ、教育に関連する各組織が有機的に連携して、教育プログラムの継続的な改良を進めるべきであるとの助言・示唆を受けた。2023（令和5）年度については以下に取り組んだ。

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育課程、学修成果/コンピテンシー、学生評価ならびに教育資源を自己点検し、課題に対して継続的に改良する努力を続けている。

#### 改善のための助言

- ・ 継続的改良を行うための体制をより充実させ、教育に関連する各組織が有機的に連携して、教育プログラムの継続的な改良を進めるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和5）年度は、上記の領域1から領域8に記載の通り、継続的改良を行うための体制の充実と連携、教育プログラムの継続的な改良に取り組んだ。次年度以降も、継続して改良に取り組んでいく。